分野・テーマ別海外販路開拓支援事業のうち分野・テーマ別の販売促進活動推進事業を活用した「タイ王国向け輸出みかん販売促進活動について」

日本青果物輸出促進協議会
（三重県農林水産物・食品輸出促進協議会）

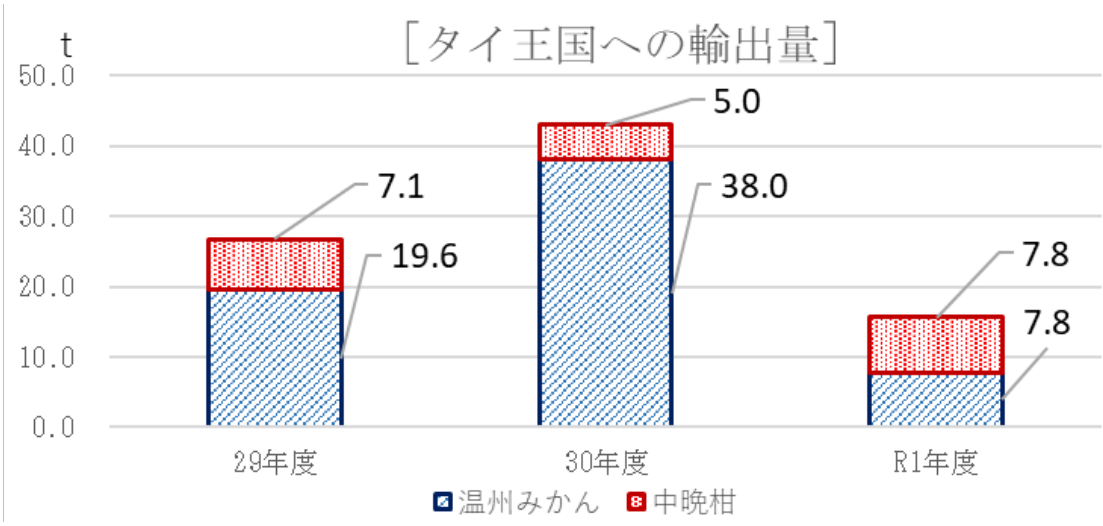
（1）概要

タイ向け輸出みかんについて、昨年度から新たに販路を拡大するため、従来の富裕層向け上位等級品だけでなく、中間層向けに中位等級品の輸出への取り組みを開始するとともに、輸出検疫条件（SOS 対策の TBZ 薬剤処理）に対応する作業効率化の成果により輸出量が拡大した（H30 年度実績：早生温州 38ｔ）。

今年度に関しては、タイ側から新しい輸出条件として TBZ 薬剤処理後に WAX 処理の工程が追加された。TBZ 処理後の柑橘は、既存の選果機に再度通して WAX 処理をするとコンタミする恐れがあるため、ポストハーベストの関係上、本選果機とは別のラインで処理しなければならなかった。しかし、JA 伊勢三重南紀統一選果場では、緊急的な機械的方法を確立することができず、追加された WAX 処理は人的作業でおこなわなければならない課題が挙がった。人的作業では処理能力に限界があり、手間と経費が費用に加わるため、輸出量は昨年度を大幅に下回った。（令和元年度実績：早生温州 7.8ｔ、早生温州の輸出回数は２回→１回に減少）。また、中晩柑の輸出に伴う現地での試食ＰＲ活動を実施する予定（３月）であったが、当社で新型コロナウイルス感染に関する予防対策が策定され、不足の事態を回避する未然防止策として３月分の販促活動は中止した。

今回は、早生温州輸出による現地での試食ＰＲ活動の実施及び販売状況の確認、現地輸入業者との商談、タイ農業局との輸出検疫条件についての意見交換等を目的に渡航を実施した報告をおこなう。

（2）輸出数量の推移（早生温州みかん、中晩柑）



（３）渡航日程及び参加者

○日　程：　令和元年１２月１１日～１４日

○参加者：　ＪＡ伊勢　役員２名　職員２名

（４）タイでの工程

○１２月１１日：移動日

１１：００発～１５：４０着

セントレア国際空港（愛知県）～スワンナプーム空港（バンコク）

○１２月１２日：販売促進活動及び店舗・市場視察

（AM）

ＭＲＴ　ＦＯＯＤＳ　ＴＨＡＩＬＡＮＤ及びＭＲＴ　ＪＡＰＡＮのスタッフが同行。

富裕層を中心に利用されるオートーコー市場を視察。

（PM）

バンコク流通最大手のセントラルグループの店舗へ移動。セントラルチェンワッタナー 店（本社）を視察後、セントラルワールド店にて試食宣伝会を行った。

セントラルワールドはバンコクの中心部に位置し、セントラルグループを代表するバンコク最大級の大型商業施設。試食宣伝の反応については、「糖度が高く甘くておいしい」等食味良好でタイ人の嗜好に合っており評価は高かったが、５９９バーツ/K（約1,800円）で販売されており、今後、中間層までをターゲットとして捉え、販売量を伸ばしていくためには流通コストを削減し、現地での販売価格を抑える必要がある。

夕刻、ＪＡ伊勢として中晩柑（せとか・不知火）や、柿・苺についても今後、タイ輸出を有　　利販売に進めることが出来るかの可能性について、ＭＲＴ側と商談を行った。

柿については少し難色を示されたが、中晩柑については、温州みかんの販売状況をみてバイヤーに交渉していただく事となった。又、苺（レッドパール）については十分に売れる環境があるとのことで、１月に日本で再度商談を行うこととなり、早期に販売を進めるには、年内に輸出向け施設の登録を行う必要があったため、早急に登録作業を実施した。

○１２月１３日：タイ農業局訪問・店舗視察

（AM）

タイ農業省バイオテクノロジー研究開発局を訪問。今後の日タイ合同検査の動向と検疫緩和に向けた方法論について協議した。現在行われている日タイ合同輸出検査については、タイ側では年一回の査察制に移行することは既に合意されており、来月、日本側との協議で合意されれば年度から実施される可能性があるとのこと。又、２国間協議においては日本の農水省とタイの農業省で進めるより、農水省又は関係機関からタイの農業局に要望書を提出し、農業局から農業省に許可申請を行う方がスムーズに話が進むことも有るとのことで、今後の対応策の一つとしたい。

（PM）

午後からアライドコーポレーション経由の販売店（モールグループ・メガドンキ）の視察を行った。同販売店にはまだ「三重南紀みかん」は陳列されていなかったが、同店においては今年２月にバンコク第１号店としてオープンした際、産地関係者による「せとか」「不知

火」の試食宣伝会を行った経緯があり、来年度もぜひ売りたいとの要望があった。又、来年３月にはセントラルワールド附近に２号店がオープンを予定しており、その後も店舗数を増やす計画があると情報を得た。

〇１２月１４日：移動
１０：４５発～１８：１０着
スワンナプーム空港（バンコク）～セントレア国際空港

（５）今後の輸出への対応

今回の視察を経て、バンコクの経済伸長は少し停滞基調が伺えるが、富裕層・アッパーミドル層の人口は高級果実販売において魅力的であり、日本の高品質果物の輸出拡大の可能性はまだまだあると思われる。今後はトータル的な農家メリットを考え、またＪＡ伊勢全体の農作物輸出も視野に入れながら有利販売に努めたい。

セントラルワールドでの販売促進活動